



『リーダーに大切なもの』

埼玉県

松原剣道スポーツ少年団

小学6年生 高安琉馬

6年生になった今年、ぼくは主将になりました。師範の先生から発表があったとき、ぼくはうれしい気持ちもありましたが、この一年とても大変になるだろうと、思った自分もいました。

実際主将をやってみると、とても大変でした。主将は、先生の指示をきいて、その言われた事をみんなに正確に指示しなければいけません。しかもぼくは6年生。小さい子の面どう見や号令をかけることもあります。また剣道そのもので手本となるべき存在です。しかし自分が叱られることがたくさんあります。例えば、先生に言われたことが指示どおりにテキパキとできないことや、稽古中にきんちょう感がたらず監督から叱られることもあります。そのようなとき、自分に自信がなくなり、おちこむ時もあります。ですがぼくは性格的に長く引きずるタイプではないので気持ちを入れかえて次回は、しっかりやろうとか集中してみんなの手本になるようにがんばりたいと思うのです。

ぼくが主将としてがんばり続けられる理由にはあこがれの先ばいの存在があります。一人は女子大生の先ばい、もう一人は男子高校生の先ばいです。二人のすばらしい所は優しさと厳しさの両面をもちあわせていることです。低学年の面どう見もよく、とても明るく話しやすいのです。一方で、いけないことをしたときはきちんと注意してくれることもあります。

夏合宿の夜のリーダー会議で先ばいに言われたことがありました。それは「周りをもっとよく見ること。」「先を見通して行動すること。」「です。ぼくにはそこがたりないんだなと思い、次の日からスケジュール表を見て、やる事や時間帯を確認してから行動するようにしました。始めは注意されたことを思い出しながら行動していたのが、少しずつ自然と体が動き、みんなをまとめられるようになっていきました。稽古前の仕度では自分の準備をしながら小さい子をトイレに行かせたり、ぼくが小1の子に胴着を着せながら3年生の子に着がえをするように声をかけることを意識しました。

「先を見通して行動すること。」については、班長会議で発言する一日の中での反省の内容を、みんなが会議に集まる前にあらかじめ考えておき、発言するときに堂々と自分の言葉で言えるようにしました。

夏の合宿をふり返ると充実感があり、全体のまとまりが出たと思いました。ぼくはなぜそうできたかを考えました。一つには下の子をほめたり、楽しくさせて一緒に行動したからだと思います。もう一つには自分自身がまずすばやい行動、正しい行動を心がけ態度で示そうとしたからです。こうして考えてみると、「後はいに注意することがリーダーの仕事ではない。リーダーはみんなより先どりをして行動し手本となることが大切だと実感しました。そうすれば自然に下の子たちがついてきてくれるのです。ぼくの道場の師範は何度も「師弟同行」という言葉を教えてくださいます。そして先生はまさにそれを実行しぼくたちを正しい道に導いてくれます。ともに稽古をして、ほめてくれたり、稽古が終わると笑顔で話しかけてくれたりします。また、先生自身が自分にきびしく稽古にはげみぼくたちに態度で手本を示してくれます。

ぼくは師範のようになることはできません。そしてまだまだ注意される事や失敗することがあります。しかし主将をやめたいと思ったことはありません。だからこそ主将としての責任感を持ち少しでもあこがれの先ばいや師範に近づくために努力していきたいです。